

平成 29 年度 第 2 回市民まちづくり集会
開催結果報告書

市民参画

市民が積極的にまちづくりに参画すること

- ・自治会などで行われている身近な地域活動に参画する
- ・市の政策などに意見等を出す

○話し合いのテーマ 自らの意志でまちづくりに参画する意識の醸成

どういった人たちが	何を	どうする
市民団体、小中学校の先生（行政が依頼）が	ワークショップを（地域について、咸宜園の改革アイデア、体験イベント、グループワーク）	行う
市民団体、小中学校の先生（行政が依頼）が	チラシ、パンフレットを	配る
市民団体、小中学校の先生（行政が依頼）が	淡窓さんの商品を	配る、広める
自治会、まちの人が	ふれあいの場を	つくる
高校生が友人同士で	日田のイベントに誘い合って	イベントに参加し、それを広める
大学が 企業が	単位の取得方法を採用を	イベントへの参画が単位になったり、ポイント制にして就活に有利になったりできるように見直す
市役所職員や 20～30 代の若者世代が	フェイスブックなどの SNS を使って	日田の魅力を広げる
親子で	イベントに誘って	楽しむ
市民団体や自治会が	お酒、ジュースおいしいもの（日田のもの）で	食べて話す場をつくる
各校区の人たちが	ワークショップを	開催して広める

○まとめシートを見た参加者のコメント

- ・学校単位で取り組むことは大事だと思う
- ・1人が3人に情報提供する意識付け
- ・就活のポイント制、単位などおもしろい。高校生が就活しやすく、Uターンしやすい
- ・フェイスブック等のSNSは「いいね！」を増やす工夫が必要
- ・フェイスブックはチャットも活用して問い合わせしやすくしたほうが良い
- ・地元キャラクターの公式アカウントをつくる
- ・親子参加などは、育友会で話してほしい
- ・楽しむことが最も大切

○テーマ以外で話し合ったこと

- ・「一部の人だけしか知らない」ということをなくす（市民全体に広げたい）
- ・日田の良さに気づきを与えるためには、市外の人、海外の人の視点が必要

情報共有

みんながまちづくりに関する情報を共有すること

・「今どのようなまちづくりが行われているのか」「どの地域にどのような課題があるのか」などの情報を共有する

○話し合いのテーマ 市民がまちづくりに参画しやすい情報発信

どういった人たちが	何を	どうする
自治会が	ワークショップを	自主的につくる
市民が	行政に対して数多く要望できる場を（提案型の協議ができる場）	つくる
行政が	媒体（テレビ、市報、情報雑誌、ホームページのうち最低3つ）を	調査し、年齢配分などを把握した上でターゲットを絞った情報発信を行う
イベント等の主催者が	インターネットや市内企業等を	巻き込んで、口コミで伝える
	ポスター等を作って	計画的・主体的に行動する
	組織を	型にはまらない組織にして意見やアイデアを集める

○まとめシートを見た参加者のコメント

- ・公民館がワークショップなどを行う場所になると来場しやすい
- ・目安箱のようにいつでも提案できる手段があると良い
- ・行政と市民のつながりが必要
- ・情報発信をするにあたって、ターゲットを絞るのは良いと思う
- ・広報車、紙芝居、絵本とかも良いと思う
- ・型にはまらないという考え方は良いと思う

○テーマ以外で話し合ったこと

- ・SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用
- ・市民まちづくり集会の様子を KCV で放送
- ・過疎地でも IT を活用する
- ・公園の活用

協働

市民や市などが地域の課題と目標を共有し、それぞれの責任と役割分担に基づき、互いに対等な立場で連携し、協力すること

- ・市民や市などがお互いに理解を深めて信頼関係を築く

○話し合いのテーマ 地域住民が地域の活動に参加しやすくなる取組

どういった人たちが	何を	どうする
－	情報を	早めに周知する
同一地域の団体などが	同一地域の活動を	まとめる
－	子育て世代の女性がリフレッシュできる環境を	つくる
－	多世代の人の活躍の場を	つくる、残す

○まとめシートを見た参加者のコメント

- ・情報発信のタイミングは大事
- ・知ろうとする意識を育てる
- ・リフレッシュできる場は学生版もほしい、20代版もほしい
- ・お金を使わずにちょっと子供と離れたりしてくつろげる場があると良い
- ・場所がなければ人は来ない

○テーマ以外で話し合ったこと

- ・若者がやりたいことを支援する
- ・若者を受け入れる環境（雰囲気）が必要
- ・アパート、マンション住民のコミュニケーションが課題